

今月の主な野菜作業

今年はまだ梅雨に入ってしまった。5月28～29日の豪雨には驚きました。鹿教湯観測所では、99ミリを観測し5月観測では史上最大値を記録しています。

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント												
<ul style="list-style-type: none"> ・チンゲンサイ ・ダイコン ・カブ ・スイートコーン ・葉ねぎ ・白うり ・ハウレンソウ ・コマツナ などがあります 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニラ ・青シソ ・サツマイモ などがあります 	<p>【タマネギの収穫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨時だが晴天時を選び計画的に収穫を行います ・収穫適期は全体の80%が倒れた頃になります ・収穫遅れになるほど貯蔵性は悪くなります 												
	<p>収 穫 始 始 始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ ・ニンニク ・ピーマン ・ニラ ・タマネギ ・シュンギク などがあります 	 <p>収穫後は1束10球毎結束して乾燥します</p> <p>タマネギは収穫後40～50日経つと自然休眠からさめ、60日以降から芽を出し始めますので、萌芽の抑制には1 前後の低温貯蔵が望ましくなります。</p>												
<p>【ネギの栽培管理】</p> <p>1) 土寄せ 茎を白くし品質や収量を向上させます。定植後30日後から除草を兼ねて行いましょう！</p> <p>2) 追肥 土寄せとあわせて行います。1回に1a当り追肥化成を2kg散布して下さい。収穫までに1ヶ月毎を目安に3～4回程行います。</p> <p>3) さび病の予防 ネギのさび病は、比較的気温が低くなる梅雨の頃と秋雨の頃に多く発生します。カビにより発生する病気なので、肥料の過不足を防ぎ健全なネギを育てるとともに薬剤の予防散布の徹底で被害を防ぎましょう！</p> <p>《ネギのさび病防除薬剤》 アミスター 20フロアブル剤 2000倍 ・・・収穫3日前まで バィルトン水和剤 5の400倍 ・・・収穫14日前まで これ以外にもありますので、防除基準を参考にしてください。</p>		<p>【トマト・ミニトマトのホルモン剤による着果安定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨時は気温も下がり着果が悪くなりがちですが、ホルモン剤の使用により着果が安定し、肥大も良くなり熟期も促進されます。 <p>トマトトーンの使用について留意点</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物</th> <th>使用目的</th> <th>希釈倍数</th> <th>使用回数等留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">トマト</td> <td>着果増進</td> <td>20 以下50倍 20 以上100倍</td> <td>各花房の3～4花が開花したとき、花房全体に散布する。 注意 25 以上の高温時散布は奇形果の発生が多くなるので、なるべく朝散布する 1つの花の2度散布しない</td> </tr> <tr> <td>着果促進 空洞果防止</td> <td>トマトン溶液にジベレリン10ppmを混用する</td> <td>上記同様 開花当日から開花後3日位までに処理する</td> </tr> </tbody> </table> <p>ミニトマトの着果促進・果実の肥大促進・熟期の促進には、処理時期として開花3日前～3日後の間に行い、希釈倍数等はトマトに準じます。（トマトトーン溶液のみ）</p>		作物	使用目的	希釈倍数	使用回数等留意点	トマト	着果増進	20 以下50倍 20 以上100倍	各花房の3～4花が開花したとき、花房全体に散布する。 注意 25 以上の高温時散布は奇形果の発生が多くなるので、なるべく朝散布する 1つの花の2度散布しない	着果促進 空洞果防止	トマトン溶液にジベレリン10ppmを混用する	上記同様 開花当日から開花後3日位までに処理する
作物	使用目的	希釈倍数	使用回数等留意点											
トマト	着果増進	20 以下50倍 20 以上100倍	各花房の3～4花が開花したとき、花房全体に散布する。 注意 25 以上の高温時散布は奇形果の発生が多くなるので、なるべく朝散布する 1つの花の2度散布しない											
	着果促進 空洞果防止	トマトン溶液にジベレリン10ppmを混用する	上記同様 開花当日から開花後3日位までに処理する											



農業豆知識

土壌の基礎知識（第2回）

土の化学成分の表し方

土壌診断を経験された方は土壌診断処方箋を見られたことがあると思います。その中で元素名で、りん(P)を酸化物名ではりん酸(P_2O_5)・カルシウム(Ca)は石灰(CaO)として表してあります。土の化学的 성분については普段何気なく使っていますが、元素と酸化物とでは呼び方も違います。

腐植

腐植は土壌の地力の元になります。どのように腐植が生成されるかは難しいので省略しますが、腐植には微生物によって分解されて有効態の窒素やりんを遊離して植物の養分となる部分があります。これの多い腐植の代表が堆肥です。腐植は、窒素やりんばかりでなく微量元素を含んでおり土の物理的性質を良好にする働きを持っています。



土壌水分

土の三相については、前回説明しましたがどんな土にも水は含んでいます。この水は固相以外の部分で隙間に含まれている水(孔げき量)で、水が多ければ空気は少なくなり、水が少なければ空気は多くなります。土壌水分は通常%で表されますが、水分20%でも砂土と壤土では湿り具合や感触も違い、火山灰土では乾いた感触の土になります。水分状態のよい畑とは、土全体の容積に対して20~30%といわれています。



野菜の品質

生産者の皆さんは、自分の作った野菜の品質の良し悪しは気になるものです。特に同じ野菜が直売所に並んだ場合、消費者は見比べしながら買って行きます。外観の見栄えや揃いを品質と言う時にはそれぞれの基準がありますが、一方で品質といっても形ではなくトマトやスイカなどの果菜類は一定の甘さなどが求められ、一方ダイコンなどは辛さも求められます。

これらの条件は栽培する時期や品種・施肥・光条件等でも品質は違ってきますが、生産者の管理方法など技術的な部分が占める割合が多いと思います。消費者も生産者の番号や氏名を見て購入される方がいます。この生産者なら「間違いなし」と言われるおいしい野菜を作りましょう。

オオタバコガ(害虫)

野菜の中で特に問題となるのが、トマトをはじめとする果菜類とレタス等の結球する野菜です。トマトでは雨よけや露地では6月下旬から被害が見られ8月から9月にかけて大きな被害が出ます。野菜等に被害をもたらすのは成虫ではなく幼虫です。その幼虫が孵化してくる卵を成虫に産ませないようにすれば被害はありません。現在は光による防除や性フェロモン剤による交信攪乱などの技術が進んでいますが、まだ殺虫剤散布が一般的です。では殺虫剤はどのタイミングがいいのでしょうか。レタスでは結球始期を中心とする2週間程度の期間に散布をすることで、高い防除結果が得られます。



あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力: 上小農業改良普及センター
地域係 近藤普及指導員(25-7156)